

中国のエネルギー需給実績と第11次5カ年計画（2006～2010年）の比較

中国国家统计局の統計公報¹によると、2010年における中国の一次エネルギー消費は石油換算で22.8億toeに達した。エネルギー源別の需要は、統計公報の数字から推定すると、石炭が15.9億toe（全体の69.9%を占める、以下同）、石油が4.2億トン（18.5%）、天然ガスが1,066億m³（4.3%）、水力・原子力は1.6億toe（7.2%）となった²。

2010年の実績と、2006年に策定された第11次5カ年計画³とを比べると、まず、一次エネルギー消費は、計画値の18.9億toeよりも3.9億toe大きくなっている。その理由として、実際の中国経済が計画値よりも大幅に成長し、年平均成長率は計画の7.5%より3.7ポイント高い11.2%に達したことが挙げられる。

他方、省エネルギー率は計画値の20%より若干低く、19.1%になった。これは、省エネルギー技術の導入、産業構造の調整、エネルギー多消費製品生産の縮小、低効率設備の廃棄などの対策実施が、計画よりも遅れていることに起因する。

石炭の消費実績は計画の12.6億toeよりも3.3億toe大きくなった。年別の石炭消費の実績を見ると、第11次5カ年計画の第2年目（2007年）で既に計画値を超え、12.9億toeに達した。後述のように、これには中国の計画策定上の問題が絡んでいる、と言える。

石油の2010年における消費は3.9億トンと計画されていたが、実績はそれを0.3億トン上回った。これは自動車の販売台数の増加並びに自家用車の普及によると解析できる。他方、2010年の天然ガス消費は、計画によれば1,100億m³であったが、実績は1,066億m³に止まり、計画は未達成となった。これは、天然ガス価格や天然ガスインフラ整備などの問題から説明することができる。

水力・原子力・その他エネルギー消費は基本的に計画値を上回った。特に水力発電は計画の5,270億kWhより約2,000億kWh大きくなった。これは中国のエネルギー戦略であり、CO₂削減政策によるものである。

上掲の2010年のエネルギー需要と計画との比較から見ると、中国の計画、特に経済並び

¹ 中国統計局「2010年国民経済と社会発展統計公報」<http://www.stats.gov.cn/tjgb/ndtjgb/qgndtjgb/>

² 2010年のエネルギー源別の実績値は、統計公報のエネルギー源別の物理単位、シェアから推定した。

³ 国家能源局張国宝局長「中国能源發展報告2010年」

に石炭需要の計画が低めに策定されていたことが分かる。計画値は基本的に最低限と理解すればよいであろう。また、最近公表された第12次5カ年計画（2011～2015年）にも同じ傾向が見られる。

（エイジウム研究所 首席研究員 張 継偉）

Asiam Research Institute <http://www.asiam.co.jp/>